

「農業と環境教育」研究室

1. 研究室紹介

(1) 研究室の概要

本研究室は、農山漁村や都市において学校教育関係者・市民・農林水産業従事者・地方自治体職員などが行う地域の食育や食と農を基盤にした環境保全活動・地域再生・地域継承の実践について、教育・学習の視点を通して考えることをテーマにしています。特に、具体的事例（学校教育実践や地域実践）に重点をおいた調査（社会科学的アプローチとしては実践へのインタビュー・参与観察法など、自然科学的アプローチとしては栽培試験、簡易土壌分析など）を大事にしています。また、環境農学を通じた地域社会の再生・継承の可能性についても研究を行っています。

(2) 研究室の活動

現在は、釧路・道東地域の学校教育現場で必要と思われる基本的な食育・食農教育に関する知識と実践能力を習得するための各種活動を行っています。この他、社会教育の領域として地域で活動する NPO や地方自治体・民間団体・農漁民団体などが行っている環境に配慮した持続可能な食と農の教育（ESFA）の取り組みや地域再生・伝統継承の取り組みについても調査活動を進めています。

このため、できるだけ食や農の現場に出かけ、実践の発展に寄与する調査を行うよう心がけています。

学生の研究に関しては、各学生の食と農への視点を大切にしながら、実践への関わり方や考え方に注意させながら進められる様に配慮しています。

(3) 卒業研究テーマ例

- ・ 道東地域における学校教育現場における環境教育実践としての作物栽培法の検討
- ・ 釧路市での体験型農園の活性化に向けた技術資料や指導資料の作成
- ・ 地域の食や農の担い手の養成と環境に配慮した農法に関する研究
- ・ 道東地域の環境農学の発展・定着に向けた資料の作成

2. 担当教員紹介

(1) 氏名・所属

野村 卓

北海道教育大学教育学部釧路校 准教授

(2) 研究テーマ

- ・ 釧路・根室地域の学校教育における主穀作栽培法に関する研究
- ・ 道東の地域特産品（ギョウジャニンニクなど）を学校教育に導入するための栽培法についての研究
- ・ 環境にやさしい農畜産業（有機、低投入持続型など）と地域再生に関する研究
- ・ 食と農を通じた地域継承に関する研究
- ・ 地域再生における農法転換に関する研究
- ・ 青少年の生活スタイルに合わせた食育実践の可能性に関する研究

(3) 担当科目

【学部】

農業と環境教育演習Ⅰ,Ⅱ、環境と産業技術、環境教育活動ⅠA,ⅢF,ⅣF、環境を読む、
環境リテラシー、環境農学、ほか

【大学院】

栽培学特論、栽培学特別演習、ほか

(4) 略歴

最終学歴

東京農工大学大学院 連合農学研究科 生物生産学専攻 農林経営・経済学講座 修了（博士（農学））

職歴

埼玉県農業試験場、埼玉県農業大学校、川越農林振興センター飯能普及部（埼玉県各職員）、
福生市公民館白梅分館（嘱託員）、埼玉県立児玉白楊高等学校（非常勤講師）、
農林水産省農業者大学校（非常勤講師）、千葉県農業大学校（非常勤講師）、
鹿児島大学産学官連携推進機構かごしまルネッサンスアカデミー（特任准教授）など

(5) 主な研究業績

- ・『食育の力（ちから）』朝岡幸彦・野村卓編著 光生館 2010年
第4章、第5章、第8章担当
- ・「グリーン・ツーリズムにおける農村の学習と地域再生の現代的課題－その2
観光農業組織と農家の経営転換を連結させた学習の捉え」『持続可能な開発のための教育（ESD）研究』
第8号 東京農工大学農学部 2010年
- ・「食に関する政策と環境教育の課題－食農と消費者教育のゆくえ－」『現代環境教育入門』
降旗信一・高橋正弘編著 筑波書房 2009年
- ・「グリーン・ツーリズムにおける農村の学習と地域再生の現代的課題－その1
農業改良普及の概念を通じて」鹿児島大学生涯学習教育研究センター年報 第6号 2009年
- ・「食と農をめぐる環境教育－食・農（生産・消費）一体化の流れと教育実践の課題－」『環境教育』

日本環境教育学会 第19巻1号 2009年

- ・「青年の自立支援における地域通貨の関係構築の可能性と課題ーコミュニティ・ベーカリー&ファーム（食と農の連結）の実践をとおしてー」『ESD・環境史研究』第6号 東京農工大学農学部 2008年
- ・『食農で教育再生』朝岡幸彦・菊池陽子・野村卓編著 農山漁村文化協会 2007年
第5章（共同）、第8章、第10章担当
- ・「食と農の体験をとおした青少年（不登校・NEET）の自立支援と就業機会」『社会的排除と社会教育』日本社会教育学会編 東洋館出版 2006年 など